

略○圖ノ如クナル、往々褻及略服ノ時ハ、笄ニ代テ用之、中銀製也、京坂ヨリ短カシ、兩丸珊瑚、或ハ瑪瑙ノ類也、先年ハ珊瑚流布、近年砂金石流布也、男子提物押目ニモ流布之トス、略○圖全ク銀製也、又鼈甲製モアリ、

〔守貞漫稿女十一〕京坂兩差簪

リヤウザシハ、文化文政頃迄用之、蓋三都トモニ略褻ノ時ニ笄ニ代テ用之、江戸ハ京坂ヨリ僅ニ前ニ廢ス、略○圖全ク銀製也、兩端ニ定紋又ハ種々花形等定リナシ、兩差三都トモニ、今モ稀ニハ用フ人アリ、

〔歷世女裝考二〕後刺 青龍刀のかんざし

三十年前、青龍刀のかんざし歌妓どもさしはやらせし事あり、簪には似氣なき物とおもひしに、西土にも搜神記七卷に、晉の惠帝元康中に、宮中の婦人璿瑠の屬にて斧鉞戈戟のるゐを作りて當か筓さしにしたる事みへたり、

〔物はくさ一〕いやみ十二段

七段略○中又女のかんざしの模様、玄のぶす、きやうの物は、古風ながら玄ほらし、青龍刀なども、きつとしていやみなけれど、近頃めづらしきをこのみて、まとひ、かなぼう、あるひは臺所の道具、わさびおろしなどに至つては、もつともいやしきとも、いやみともいふべきやうぞなき、

〔守貞漫稿女十二〕武藏野簪略○圖

天保十一二年頃、江戸ニテ暫時流布ス、竹簪ニ鳥ノ羽ヲ屬タリ、處女娼妓モ用之ト雖ドモ、銀製ノ物ノ如クニ非ズ、唯一時ノ興ニ差スノミ、賣之ハ専ラ行人多キ所ニ、天道見世、又ハ路上ニ賣リ歩クノミ、賣之詞ニ深川名物ノ武藏野簪ト云シガ、不日シテ深川等ノ娼妓ヲ禁ジ、其家ヲ壞ツ、時人後ニ此簪ヲ賣リシハ先兆カト云リ、